

北太平洋と日本におけるさけます類の資源と増殖

メタデータ	言語: Japanese
	出版者: 水産総合研究センター
	公開日: 2024-07-03
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 岡本, 康孝
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2009715

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



北太平洋と日本におけるさけます類の資源と増殖

おかもと やすたか
岡本 康孝（さけますセンター 業務推進部）

2008 年の北太平洋

漁獲数

第 17 回 NPAFC 年次会議における各国の報告によると、2008 年 1-12 月の北太平洋の漁獲数は 3 億 4,754 万尾で、前年の 5 億 1,117 万尾より 32% 減少しました（図 1A）。

これを魚種別に見ると、カラフトマスが最も多い 2 億 159 万尾で全体の 58% を占めており、前年の 3 億 4,962 万尾に比べ 42% 減少しました。次いでサケが 8,891 万尾（構成比 26%、対前年比 92%）、ベニザケが 4,980 万尾（構成比 14%、対前年比 84%）と続き、これら 3 魚種で 98% 以上を占めています。ギンザケとマスノスケは、それぞれ 629 万尾（対前年比 123%）、95 万尾（対前年比 87%）となりました（図 1A）。

地域別では、アラスカ州が 1 億 4,632 万尾と最も多く、以下、ロシア 1 億 4,097 万尾、日本 5,663 万尾、WOCI（ワシントン、オレゴン、カリフォルニア、アイダホ州）185 万尾、カナダ 169 万尾、韓国 8 万尾と続いています（図 1B）。

人工ふ化放流数

2008 年 1-12 月に人工ふ化放流された幼稚魚数は 51 億 2,030 万尾で、前年の 50 億 3,855 万尾に比べ 1.6% 増加しました（図 1C）。

魚種別ではサケが 31 億 61 万尾で半数以上を占め、これに次ぐカラフトマスの 13 億 8,832 万尾と合わせると全体の 9 割近くを占めます（図 1C）。

地域別では日本が 20 億 4,639 万尾と最も多く、以下、アラスカ州 14 億 8,680 万尾、ロシア 9 億 2,706 万尾、カナダ 3 億 7,159 万尾、WOCI 2 億 7,191 万尾、韓国 1,657 万尾と続いています（図 1D）。

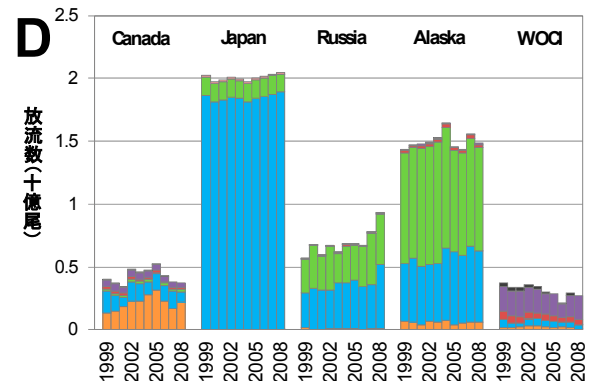
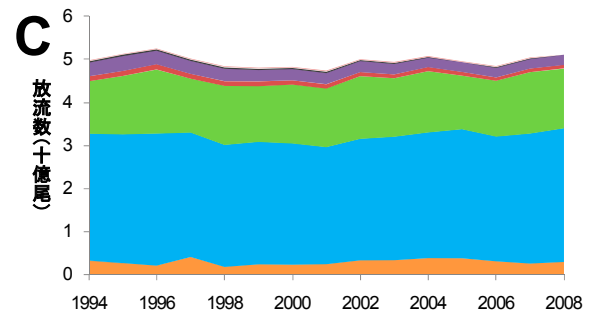
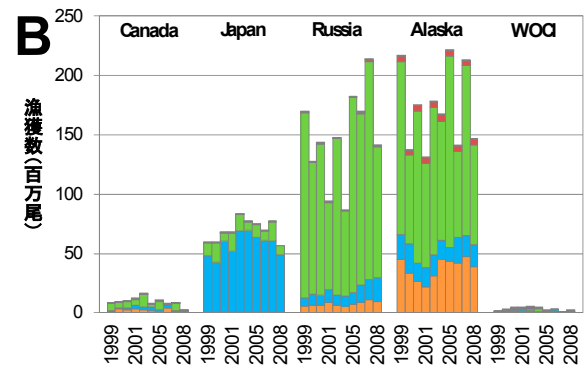
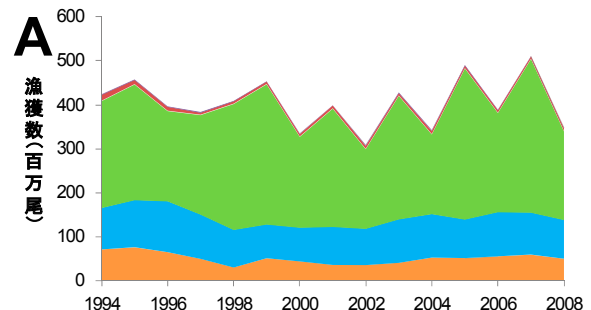


図1. 北太平洋におけるさけます類の魚種別漁獲数（A）、地域別魚種別の漁獲数（B）、北太平洋におけるさけます類の魚種別人工ふ化放流数（C）及び地域別魚種別の人工ふ化放流数（D）。1994-2006年は「NPAFC Statistical Yearbook」による商業漁獲数の確定値だが、2007年以降はNPAFC年次報告等で示された暫定値である。1998年までのロシアにはEEZ（排他的経済水域）で他国が漁獲したものを含む。WOCIはワシントン、オレゴン、カリフォルニア、アイダホ州の合計。韓国は他国に比べ漁獲尾数・放流尾数ともにわずかなため、図中では省略している。

■ ベニザケ ■ サケ ■ カラフトマス
 ■ ギンザケ ■ マスノスケ ■ スチールヘッド
 ■ サクラマス

2009 年度の日本

サケ

2009 年度の来遊数（沿岸での漁獲と内水面での捕獲の合計）は 12 月 31 日現在で 6,247 万尾、前年度同期比 119%となっています（図 2）。来遊数の年変動をみると、1996 年から減少を続けた後、2000 年度を境に増加傾向に転じ、資源変動はあるものの近年は高位で安定しています。採卵数は 12 月 31 日現在で 21 億 6,784 万粒を確保し、放流数もほぼ計画どおりの 18 億 360 万尾程度とすることが見込まれます。

カラフトマス

主産地である北海道における 2009 年度来遊数は 1,113 万尾で前年度比 158.0%と大きく増加しました。カラフトマスの来遊数は 1994 年に急増して以来、隔年の資源変動を示し、1994-2002 年の偶数年級群での平均が 1,500 万尾、奇数年級群のそれは 700 万尾で、両者にはおよそ 2 倍の開きがありました。しかし 2003 年からそのパターンが崩れ、豊漁年と不漁年が逆転しています。2009 年度についても、奇数年でありながら多い来遊数となりました。なお、採卵数は 1 億 6,764 万粒でほぼ計画どおりのため、放流数も計画の 1 億 3,420 万尾程度とすることが見込まれます（図 3）。

サクラマス

2009 年度の北海道における河川捕獲数は 12,923 尾で前年度比 52.6%と大幅に減少しましたが、昨年度の捕獲数が多かったため平年並みの水準となっています。採卵数は 402 万粒で前年度比 95%となりました。なお、2008-2009 年度の本州河川捕獲数については現在確認中です（図 4）。

ベニザケ

2009 年度の河川捕獲数は 1,263 尾で前年度比 225%となり、大幅に増加しました。採卵数は 40 万粒と前年度とほぼ同じ値になりました。当センターでは北海道の 3 河川（安平川・静内川・釧路川）でベニザケの人工ふ化放流に取り組んでいます。

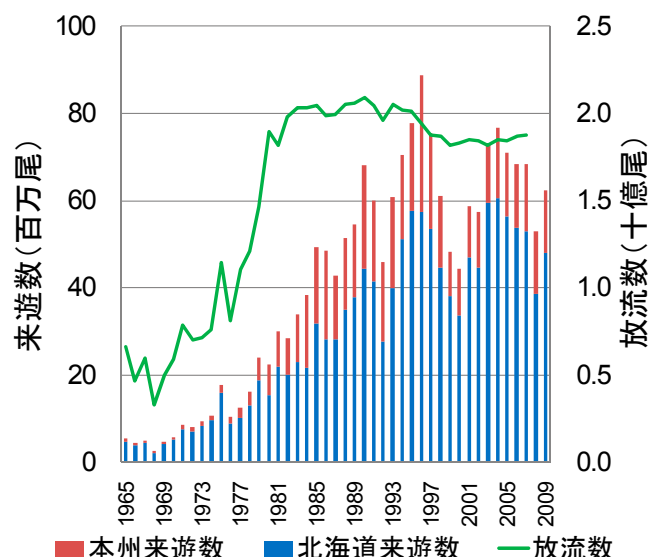


図2. 1965-2009年度の日本におけるサケの来遊数と人工ふ化放流数。2009年度来遊数は1月10日現在。

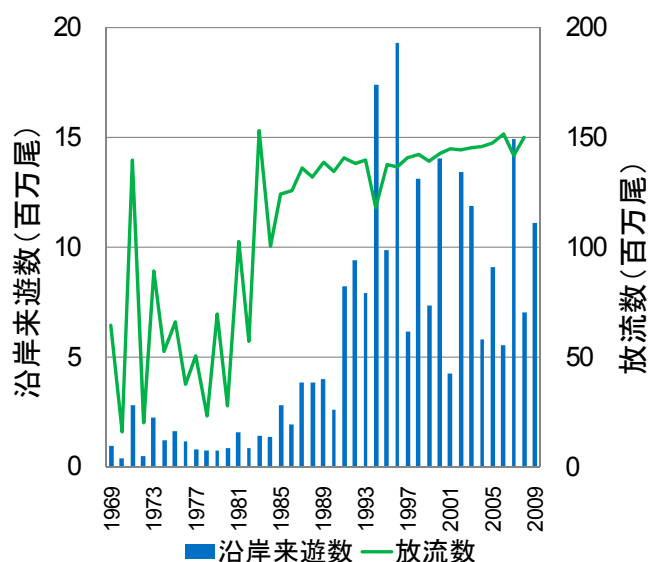


図3. 1969-2009年度の日本におけるカラフトマスの来遊数と人工ふ化放流数。

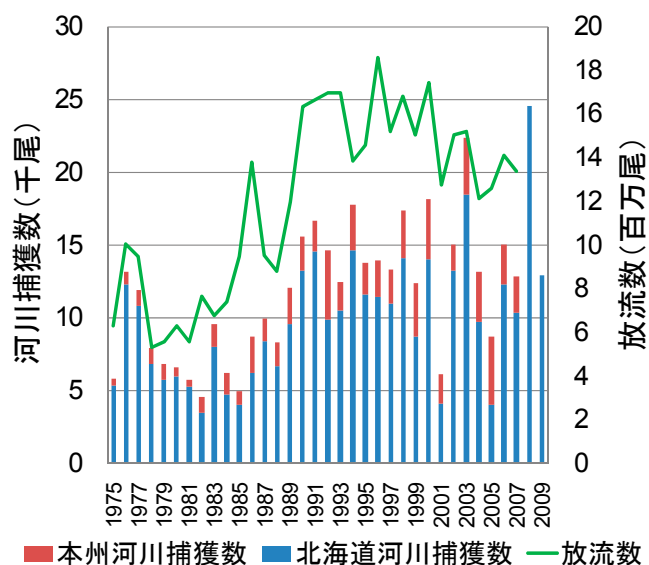


図4. 1975-2009年度の日本におけるサクラマスの河川捕獲数と人工ふ化放流数。2008-2009の本州河川捕獲数は現在確認中。